

## 令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	障がい者の就労機会の確保と作業代の増収事業
事業主体 (連絡先)	社会福祉法人 南木曾町社会福祉協議会 (ひだまり工房) (0573-75-5223)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	851,272円 (うち支援金: 567,000円)

### 事業内容

障がい者の就労機会を確保するとともに作業代増収を図るために必要な機材を導入した。

- 1 資源回収用コンテナ1基(容量8.2 m<sup>3</sup>)の導入
- 2 焼き芋機1台(焼き芋容量10 kg)の導入

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 ひだまり工房の定員は15名。現在の利用者は12名だが現状は施設的にもいっぱい状態である。しかし希望する利用者には門戸を広げてきた結果、前年対比109.7%増(1月時点)の利用という実績を得られた。障がい者に社会活動を提供することができた。
- 2-1 資源回収コンテナの導入が2月中旬であったため直接的な事業効果は出ていないが、年間を通して社会活動への貢献を啓もうしPRを実施した。ストックヤードへ持っていけない高齢者対策として自宅へ伺い回収することにも取り組めた。結果、微量ではあるが回収量を増やすことが出来た。
- 2-2 焼き芋機の導入で販売可能量が增大した。ひだまり工房利用者が前面に立ち販売することで、ひだまり工房の存在、障がい者への理解が住民に進んだ。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続き積極的に住民と関わることを継続していく。さらに工賃が増加して利用者の就労意欲の向上を図っていくことを目標にしていく。



【イベントにて活躍】

### 【目標・ねらい】

- ①障がい者の就労機会の確保
- ②平均工賃の増額

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ①前年対比大幅増の利用者となった。例年、冬場に利用できなかった人も今年は積極的に利用できた。
- ②延利用人数が増加したため平均工賃の増額に苦勞したが、元気づくり支援金事業を活用できたおかげで増額を図ることができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある